

03 学齢期の情報

*以下の情報については、その時期に久さんのことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

<p>小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況</p>	<p>I Q 6 8 といった記録はあるが、詳しいデータは不明。</p>
<p>教育関係者からの情報</p>	<p>中学の太鼓部の顧問だった先生より、「診断名は『広汎性発達障害』だったと思う。中学一年の頃は、よくしゃべる子だった。張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」という話があった。</p>
<p>中学に入学後に一度母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報（年に一回のペースで数回来所、離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。真面目で心配性な母親、元々は子どものことを心配している）</p>	<p>「母親がとても心配そうに久さんを連れてきて、『久はやさしい子です。でも乱暴なところがあるからと、学校から追い出されてしまったんです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えてきたので、印象に残っていますとのこと。（以下のことは、5年前の高等部二年生の時の状態について、聴取したことをまとめたもの。）</p> <p>日付、時刻～よく理解できている。</p> <p>数、数量～計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の時には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。</p> <p>書字～筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かたりする。筆順は自分なりの書き方。</p> <p>読み～一、二行の文章はわりとすんなりと読むことができていた。難しい漢字でも知っているところがあった。読み違い（勝手読み）は目立っていた。</p> <p>聞き取り～一対一での指示は入っていくが、集団のおける指示はほとんど入らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。</p> <p>話すこと～慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。</p> <p>比較・推測すること～予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことをまねているだけのことも多い。</p>

